

〈国際金融パネル〉

テーマ： 為替予測の実際

座長 立正大学 林 康史

パネルの主旨

アカデミズムでは、長年、為替レートは予測不可能と信じられてきたが、最近のマクロストラクチャーの研究では取引データを使うことによって為替レートの予測力が高まることや、ヘッジファンドなどの一部の投資家が他の投資家よりも為替レートの予測に優れていることが明らかになってきた。また、行動ファイナンスの知見からも、予測の優劣・巧拙が論じられるようになった。

本パネルでは、外為市場を長く見てきた為替アナリストが為替予測に際し、どの変数に着目し、どのようにストーリーを構築していくのかを、岩壺健太郎（神戸大学）、田中泰輔（野村証券）、高島修（シティバンク銀行）の3氏をパネリストに迎え、林康史（立正大学）の司会進行のもと、学会、市場参加者のそれぞれの立場から議論を行う。

具体的には、最近の研究成果をサーベイした後、具体的に、最近の円高、キャリートレード、金融政策、震災などのトピックスを含め、投資家の動き（フロー）や他のアナリストの声をどのように解釈するのか、マーケット・センチメントやアノマリーをどう取り込んでいくのか、失敗や成功から何を学んだのか、予測に際し心がけていることは何か等、「仕事の流儀」を報告・議論することで為替レート予測の解明を試みる。